

平成 30 年度
「運営に関する計画」

大阪市立市岡東中学校
平成 30 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○全国学力・学習状況調査、大阪市統一テストの結果から、各教科ばらつきはあるものの、全体として「読む」「記述」「表現」の項目ができていない。活字をしっかりと読み解き、考えたことを自分で表現できる言語能力の育成が必要である。そのために、教科指導だけではなく、学校図書館も最大限に活用し、学力の基礎となる読解力を向上させるため、読書活動を推進していく必要がある。

○学習に対する意欲、積極性に欠け、現状の学力に甘んじている生徒が多い。

○ほとんどの生徒は、規律のある学校生活を送っているが、ほんの数名が問題行動をくる返し規律を乱している。関係諸機関との連携とより粘り強い指導でからうじて秩序を維持できている。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○平成 32 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100% にする。

○平成 32 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 75% 以上にする。

○平成 32 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を平成 29 年度末の校内調査より減少させる。

○平成 32 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を平成 29 年度末の校内調査より減少させる。

○平成 32 年度末の校内調査における「学校での生活が楽しい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 75% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○平成 33 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、平成 28 年度より向上させる。（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと）

○平成 33 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 4 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 3 ポイント減少させる。

○平成 33 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 7 割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 3 ポイント増加させる。

○平成 32 年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、平成 28 年度より増加させる。

○平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルラン、50m 走、立ち幅とびの平均の記録を、平成 28 年度より 3 ポイント向上させる。

○学力の基礎となる読解力を向上させるため、読書活動を推進し、図書室を週 8 回以上開館する。

○平成 32 年度末の校内調査における「授業の内容がよく理解できる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 75% 以上にする。

○平成 32 年度末の校内調査における「家庭学習を習慣的に行っている」の項目について、「当てはまっている(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 75% 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。
- 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルラン、50m走、立ち幅とびの平均の記録の合計を、前年度より3ポイント向上させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立市岡東中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
全市共通目標	
○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。	
○校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 70 %以上にする。	
○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。	
○年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 2 道徳教育】 ・学校生活のさまざまな場面を通じて、人間尊重の精神を培う。 ・各学年とも、道徳の副読本や『私たちの道徳』を積極的に活用し、実践を記録する。 ・1 年に一度、全学年で道徳の公開授業を行う。	
指標 各学年とも道徳の副読本や『私たちの道徳』を積極的に活用し、実践記録する。なお、1 年に一度、全学年で道徳の公開授業を行う。	
取組内容②【施策 2 特別支援教育】 個に応じた指導・支援のあり方を工夫する。	
指標 個別の指導計画の作成をする。	
取組内容③【施策 2 基本的な生活習慣の確立】 時間励行・挨拶の習慣付け、正しい言葉遣い、正しい服装の指導をおこなう。	
指標 学校アンケートで、服装や時間を守るなどのルールを守っていると答える生徒の割合を 1 回目より 2 回目を向上させる。	
取組内容④【施策 2 規範意識の育成】 校則と集団生活でのマナーを習得させる。	
指標 学校アンケートで、学校の決まりを守っていると答える生徒の割合を 80% 以上にする。	
取組内容⑤【施策 2 生活指導上の課題への対応（生徒理解）】 家庭訪問、教育相談を中心に、生徒個々の実態を把握し、生徒理解を深める。	
指標 学校アンケートで、困ったときに相談できる先生がいると答える生徒の割合を 1 回目より 2 回目で向上させる。	
取組内容⑥【施策 1 生活指導上の課題への対応（不登校問題）】 スクールカウンセラーと連携し、当該生徒個々の実態に応じた対策を講じる。	
指標 平成 30 年度末の行内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。	

<p>取組内容⑦【施策1 安全教育】</p> <p>地震、津波、火災等を想定した避難訓練を実施する。</p> <p>指標 避難訓練を年間2回実施する。</p>	
<p>取組内容⑧【施策2 健康な生活習慣】</p> <p>保健委員会活動や保健指導を通し、生徒の健康意識を高める。</p> <p>指標 アンケートで規則正しい生活をしていると答える生徒の割合を1回目より2回目で向上させる。</p>	
<p>取組内容⑨【施策2 性教育】</p> <p>年間指導計画の元、各学年の現状に沿った指導を実施する。</p> <p>指標 各学年で1回性教育を実施する。</p>	
<p>取組内容⑩【施策1 環境整備】</p> <p>整美委員会活動や、定期的な点検により、校内美化の意識を高める。</p> <p>指標 アンケートで学校の清掃が行き届いていると答える生徒の割合を80%以上とする。</p>	
<p>取組内容⑪【施策1 研修計画】</p> <p>全体研修を計画し、全職員が参加できる体制をつくる。経験の少ない教員のための自主研修会を企画、実践する。</p> <p>指標 生徒の安心安全にかかわる研修会を年間1回実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市立市岡東中学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標	
○中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	
○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。	
○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。	
○校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。	
○平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルラン、50m走、立ち幅とびの平均の記録を、前年度より3ポイント向上させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 よくわかる授業の実施】 教科の特性を活かし、よくわかる授業を積極的に行う。 指標 学校アンケートで授業がよくわかると答える生徒の割合を1回目より2回目を向上させる。	
取組内容②【施策5 授業展開の工夫】 I C Tの活用やアクティブラーニングを実施するなどにより、生徒が主体的に学習する授業を展開する。 指標 学校アンケートで学習に積極的に参加していると答える生徒の割合を1回目より2回目を向上させる。	
取組内容③【施策8 授業研究】 年間を通して、校内研究授業（研究討議を含む）を行い、授業力の向上に取り組む。 指標 年間を通じ、校内研究授業を1人1回実施する。	
取組内容④【施策8 教育課程】 新学習指導要領を見据えた教育課程の編成を進める。 指標 シラバスを作成する。	
取組内容⑤【施策5 特別活動】 さまざまな体験学習や鑑賞などを実施し、豊かな感性を育てる 指標 アンケートで行事は楽しみであると答える生徒の割合を80%以上にする。	

取組内容⑥【施策 7 食育】

食生活の見直しや食生活への関心を高め、食生活の自己管理を促す。

指標 アンケートで朝食を食べていますかと答える生徒の割合を1回目より2回目で向上させる。

取組内容⑦【施策 5 図書館の活性化】

学校図書館の活性化を図り、読書活動を推進する。

指標 図書館の開館を週8回以上行う。

取組内容⑧【施策 5 地域人材の活用】

学校元気アップ事業を活用し、自主学習会を実施する。

指標 定期テスト前自主学習会や、放課後自主学習会で、平均週2回以上の実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(添付資料)

年度目標に向けた各教科の取り組み

① 【国語科】
・基本的学習習慣、家庭学習習慣の定着のために、漢字テスト、小テストを実施する。
・定期テストの作文問題出題、小論文指導等を通じて、書く力を向上する。
② 【社会科】
・生徒の興味・関心を高める授業や教材を工夫するとともに、基礎、基本の定着を図る。
・グループによる協同学習に取り組み「主体的で、対話的で深い学び」の実現を目指す。
③ 【数学科】
生徒にあった自主教材を作成することによって、基礎力を向上させる。
④ 【理科】
身近なものから自然科学に興味を持たせ、自然の事物や現象について理解を深めさせる。また、プリント等の補助教材を使って、基礎学力の定着に努める。
⑤ 【英語科】
教科書内容理解を4領域(読む・聞く・話す・書く)の活動を通して行い、英語でのコミュニケーション能力の基礎を養う
⑥ 【音楽科】
生涯教育の始点として基礎の徹底を図る。
⑦ 【美術科】
美術の鑑賞を通して視点を拡げ、基礎的な技能の育成を図る。
⑧ 【保健体育科】
・集団行動を通して、規律ある集団の育成を図る。
・基礎体力の向上・定着を図る。
⑨ 【技術・家庭科】
・基礎、基本の定着
・実習活動を総時間の30%以上を目指す。

年度目標に向けた各学年の取り組み

① 【1年】
○ 自主性を高め、規律を守る集団の育成
○ 互いに認め合い、協同できる集団の育成
○ 学力の向上
② 【2年】
○ 日々の教育活動において組織的に取り組み、規律を重んじ、社会性を身につけた集団育成を行う。
○ 生活指導上の問題や、全員に紹介するべき良い事象が起った時に、学年集会を開き追体験をさせることによって、集団を良い方向に導く。
○ 校内秩序を壊さぬよう、生徒は生徒として過ごし、普段の学校生活や行事を通して、自ら学び、自ら考え、自ら行動する集団育成を図る。
③ 【3年】
○ けじめをつける
○ 規律、時間を守る
○ お互いの事を思いやる集団をつくる